

忍城水攻め余話2

浅野長吉の活躍

忍城攻防戦では、豊臣軍を率いて水攻めを仕掛けた石田三成がクローズアップされていますが、三成と並んで重要な役割を果たした武将がいました。秀吉子飼いの武将の一人、浅野長吉（のちに長政と改名）です。

天正18年（1590）4月、小田原城を包囲した秀吉は、南関東の北条方の城郭を攻略するため、豊臣軍と徳川軍の武将からなる連合軍を派遣しました。浅野長吉は連合軍の主力の一人として下総国や上総国を転戦した後、武蔵国の岩付城を攻略、さらに上杉景勝や前田利家と合流して鉢形城を開城させ、石田三成が攻める忍城に進軍しました。

秀吉は三成に対して、浅野長吉の派遣と忍城水攻めに関する指令を伝えており、三成も秀吉の意に沿い、水攻めのための築堤工事を進めていました。百戦錬磨の浅野軍は、同年7月1日に忍城皿尾口から突入し、成田方の



浅野長吉(長政)画像模本  
東京大学史料編纂所蔵

兵30余を討ち取りました。長吉はこの成果を小田原にいる秀吉に報告しましたが、秀吉からの返事は「水攻めを命じているのだからそのようなにせよ」というものでした。

やがて、忍城の開城交渉がまとまり、長吉は豊臣軍の武将、滝川忠征にあてた7月14日付けの書状で、「今日明日中に忍城に入れるだろう」と知らせています。また、同日付けで豊臣軍の武将、木村常陸介から忠征にあてた書状には、忍城の戦後処理に携わるのは長吉と自分であることが記されています。さらに、7月16日付けの長吉の書状には「忍城を一昨日に受け取った」と記しています。

これらの史料から、忍城の豊臣軍への引き渡しが行われた後、忍城開城と戦後処理に長吉が深く関与していたことが分かります。また、豊臣方の武将たちも長吉にあてた書状の中で、忍城攻めの功績をたたえています。

長吉はその後、甲斐国21万5千石の領主となり、豊臣五奉行の一人として豊臣政権を支え、その子孫は後に、安芸国広島藩主となりました。浅野家に残された古文書をはじめ、長吉とほかの武将との間で交わされた数多くの書状は、忍城攻防戦の実態を知る上で、欠かせない史料となっています。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

こぜにが with フラベ ちゃん行く! アートギャラリー

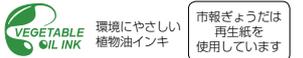
このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



今月は芸術の秋にふさわしい施設「アートギャラリー」を紹介するよ。平成12年4月にオープンしたアートギャラリーは、産業文化会館内に設けられた施設で、市内や県内で活躍している芸術家の絵画や版画など約40点が展示されているんだ。また、市内の芸術愛好家団体の作品を展示するなど、芸術の素晴らしさを発信する施設として活用されているよ。みんなですてきな作品を見に来て、芸術の秋を満喫してくださいね。

今月の表紙 古代蓮の里東側にある田んぼアートが見ごろを迎えています。これから秋にかけて稲穂が色付き始め、黄金色に変わります。夏の装いとは一味違った田んぼアートを、古代蓮会館展望室からぜひご覧下さい。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課 TEL 556-1111 FAX 550-2116